

末永くよろしくお願いたします。

2012年12月15日に開館しました。

たんすレター



はじめまして。

kioku 手芸館「たんす」は、美術家の呉夏枝（お・はぢ）が発案し、呉さんとブレイカープロジェクトが運営するプロジェクト・スペースです。物件探しから内装・設営に至るまで、地域の方々の多大なご協力によって、2012年12月15日にオープンしました。

「たんす」では、これまでデイケアセンターみどり苑で行っていた「編み物をほどく／ほぐす」ワークショップを引き続きおこなっています。『まだほどいてるの?』と思う方もいらっしゃるかもしれませんが、来年の春頃予定している呉さんの展覧会に向けて、このまちから100着ほどくことを目標にしています。(現在、まだ約50着です！ひき続き着なくなった編み物を譲ってくださる方を探しています)



「たんす」は、持ち主の想いや記憶が込められた編み物の収蔵庫として、また、それらの毛糸をつむぎ、作品を制作する呉さんのアトリエとして、時々展示も行ったりしつつ、皆さんにも活用してもらえる「まちのコミュニティ・スペース」になりたいと思っています。でも実は、

そもそも新参者の私たちが、よりたくさんの方々と出会うきっかけや場を作りたいと思ったのが始まりです。

ぜひ「たんす」で、このまちや人のおもしろいエピソードや日々のことなど、私たちにおしゃべりしてってください。「なんやようわからん」という方は、元・鈴木タンス店がどんなふうに変化したか見にくるだけでも一見の価値ありますよ！どなた様も、お気軽にお立寄りください。

心よりお待ちしております。



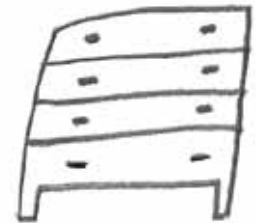
呉 夏枝（お・はぢ／美術家、大阪在住）

主に染織、刺繍、織る、編む、結ぶ、解くなどの手法を使って制作している。織り物をほぐすことで、織りものに織り込まれなかったものごとや、語られなかった記憶を顕在化しようとするインスタレーションや、音声や写真を使った作品などを展開している。2012年博士号取得（美術、京都市立芸術大学）

Breaker Project（ブレイカープロジェクト）

2003年より大阪市の文化事業としてスタートしたブレイカープロジェクトは、現代の芸術と社会をつなぎ、表現者と鑑賞者双方にとって有効な創造の現場を創出することを目的とし、まちの中で地域の人々と様々な関わりをつくりながらアートプロジェクトを実践しています。

「たんす」のひき出し



第1回：松田薫さん（「たんす」コンシェルジュ）

【「たんす」コンシェルジュとは】ワークショップや見学のお手伝いをする「たんす」の総合ご案内係です。

私のひき出しは、詰め込みすぎて整理がつかずいつも引っ張り出すのにナンギします。ブレイカープロジェクトとの関わりをいいますと、2004年に『ウクレレと歌留多で語る新世界』の催しに参加したのがきっかけです。ペンキ塗りや掃除などのお手伝いをするという形でかれこれ10年にもなりました。たぶん体を動かして働いたことの成果が眼で見てわかるということと、お金と対価でないところが気に入ったのだと思います。出来上がっていくものへの期待と楽しみがそれについて来るという感じでしょうか。

20～30年前の話ですが、現代美術をやる友だちがいて、淡路島での「たんぼ展」に誘ってくれました。稲が刈られて広々とした一帯で展示やパフォーマンスがのびのびと展開されていて、こちらにも開放感をくれました。

さて、そこで思い出すのが泊った家の台所でのこと。テーブル下になおされた椅子の上に子猫が隠れていました。かがんで見ようと顔を近づけたとたん、奥に潜んでいた親猫から眼にパンチが！本物の猫パ〜ンチ！ですよ。ミッキー・ロークとちゃいますよ。しばらく眼帯の人になりましたが、片目だけで過ごす夢の中のような気分がしました。「たんぼ展」と猫パンチはいつもセットで私の記憶の箱に仕舞われているようです。